

(縁・円・援)

# 兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

## ～2年目のコロナ禍。地域づくりの再開に求められるつなぎ役～

令和3年6月30日、生活支援体制整備事業市町担当者・管理者会議が開催されました。今年度は、昨年度、明らかになった行政・包括・社協等、それぞれの「対話」の課題と、新型コロナウイルス感染拡大から2年目になり、希薄になった地域のつながりをどのようにするか等の新たな課題を抱える中での開催でした。オンラインで実施した今回の研修は、110名を超える各自治体の担当者や関係者で考える機会となりました。

### 生活支援体制整備事業市町担当者・管理者会議開催

制度開始後、コロナ禍で起きていたこと

会議の中で示された論点



#### 【基調説明】

「生活支援体制整備の今後の展開について」

報告者：兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢政策課 課長 坪井 宏徳氏

#### 【実践報告・討議】

「生活支援体制整備の進め方について」

報告者：西宮市健康福祉局福祉総括室地域共生推進課 村田 昇平氏

朝来市健康福祉部ふくし相談支援課 副課長 足立 里江氏

ファシリテーター：兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 部長 戸田 達男

#### 【研修紹介】

全国コミュニティライフサポートセンター (CLC) 主催  
「生活支援コーディネーター養成 Zoom オンライン研修」  
[https://www.clc-japan.com/sc\\_kenshu/index.html](https://www.clc-japan.com/sc_kenshu/index.html)

【発行元】(令和3年9月2日発行)

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当：山下・永坂)

# コロナ禍で、多種多様な今ある「小さな」地域づくりを活かす

## 生活支援体制整備事業の今後の展開について(兵庫県行政)

※今回は、紙面の関係上、意見交換等一部のみ掲載しています。

- ・生活支援体制整備事業のあるべき姿は社会的孤立を防ぐこと。
- ・何より大切なのは住民が主体となって地域づくりをするプロセスを経て豊かな地域での生活が送れることを支援する。
- ・行政・包括・社協・さまざまな関係者で共通認識をもって同じ方向を向いて支援する。
- ・各市町の地域福祉計画、介護保険事業計画において、生活支援体制整備事業を計画に盛り込む。
- ・「兵庫県生活支援体制整備事業の手引き」を踏まえた実践を。



兵庫県 坪井課長

## 行政の役割・姿勢として伝えたいこと

### 【西宮市 村田氏】

- 生活支援 CO が地域でどのような課題を感じ、課題解決のためどう動くのか。またその生活支援 CO の活動後、どのような地域になるイメージになるかを生活支援 CO と共有する。
- 行政として生活支援 CO と情報を共有しながら、市として取り組むことを考えていく。
- 高齢・障害・子ども等の福祉分野に限らず、分野を超えてどの分野とも連携しながら地域を基盤とした一体的事業として課題解決に取り組もうとしているか。
- 生活支援 CO が活動する意味を内部・外部に伝えられるように工夫する。  
(相談数等、数値による報告(グラフ)とプロセスの報告(課題⇒行動⇒変化・効果)の併用)



西宮市 村田氏

### 【朝来市 足立氏】

- 最初に互いの違いを認め合い、ずれを正してからスタートした。  
「トンネルの中に住民がいる。お互いに掘り進めるとずれる」(社協職員の言葉)
- 社協と行政は、違いがあるからこそたくさんの学びがあった。お互いに学び合う姿勢を持つ。
- 違いを認める、学び合う、そして、実践していく。
- 行政とともに、専門職がリードしてしまうと、住民の主体性を奪ってしまう可能性があることに気付く。住民のスタイルに歩みをそろえる姿勢が求められる。  
「怒っている住民こそ真剣にかんがえ、力強い味方になってくれる」(社協職員の言葉)



県社協 戸田部長



朝来市 足立氏

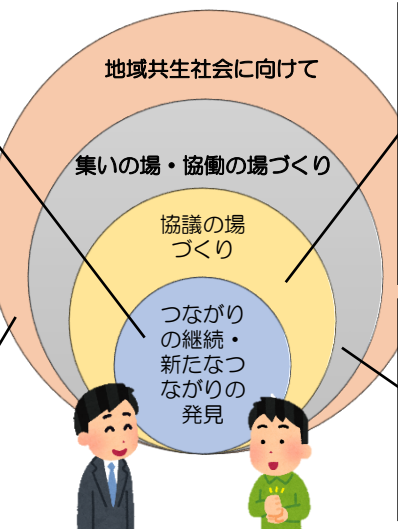
## 管理者会議(4者)で協議されたテーマ

### 「つながりの継続・新たなつながりの発見」

- コロナ禍で新たに育んだつながりの芽をたいせつに。
- 緩やかな、小さなつながりを大切にす。

### 「地域共生社会に向けて」

- 高齢者・こども・障害者等、属性にかかわらず一体的に地域づくりをとらえていく。
- 縦割り、関係を超える
- まちづくりのビジョンは高齢者だけではない



### 「協議の場づくり」

- 住民が、課題解決だけでなく、この町をどうしていくかのビジョン型で話し合う。
- 形式ではなく、小学校区等、既存の会議の活用等柔軟に地域のいろいろな話し合いの場を活かす。

### 「集いの場・協働の場づくり」

- 地域のいろいろなところで集まっている機会、多様な集まり等、今ある活動を活かす。
- 役割づくり(こどもと高齢者等)を意識する。

【編集後記】コロナ感染拡大が2年目になりました。社会に及ぼす影響として、確実に人々の生活を脅かしています。こんな中で、切れかけたつながりをいかに取り戻すか、また、新たなつながりの芽をいかに活かすか、生活支援 CO のかかわりが大きく求められている会議だと感じました。「会議のために集まる」のではなく、「小さな声を聴く」ために、行政も専門職も生活支援 CO も地域に出なければならぬ時ではないかと強く感じます。

### お知らせ

- 「えんがわナビの日」(オンライン情報交換会)を設定します。  
8月から毎月24日 15時~17時  
(24日が土日の場合は前後します)
- 生活支援 CO 基礎セミナー開催  
9月13日(月) 10時~16時  
オンライン研修